

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学研究科
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 大学院 (学部) 図書室および大学院共同研究室を、院生会の要望も入れながら整備する。	→大学院 (学部) 図書室および大学院共同研究室の整備。	B
2. ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA) の任用による教育研究支援体制を整備する。	→専門科目におけるTAの任用者数 (2013年度までに1名以上)。特定プロジェクトへのRA任用者数 (1名以上)。	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

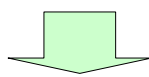
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目	(現状説明)
☆ 小項目9.0.4	<p>研究科においては自治組織である「院生会」が、大学院共同研究室や大学院 (学部) 図書室の利用および設備整備に関してなど、研究環境に対する学生のニーズを集約し、それを基に研究科と調整を行っている。2008年度および2009年度は計5項目の要求事項 (PCおよびプリンタの設置、専門研究に係るソフトウェアの整備、公的協議の場の設置など) を調整、うち3項目において改善に向けての進捗をみた。2010年度も計4項目の調整を進行中である (全学的な設備に関する調整も含む)。</p> <p>現在、大学院 (学部) 図書室および大学院共同研究室の整備状況は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大学院 (学部) 図書室： 大学図書館への配架分は除く 蔵書冊数 (システム登録済み冊数)： 図書17,706冊 (16,457冊)、雑誌4,899冊 (4,899冊) など 開架状況： 全面開架</li> <li>■ 大学院共同研究室： 個人ロッカー： 在籍者数分を用意 (計54個)。 PC等機器： ウィンドウズPC・計3台 (聖書学ソフトウェア/聖書地図ソフトウェア/特殊ギリシャ語フォントなど利用可)、両面カラー・レーザプリンタ計1台。</li> <li>■ その他： PC教室・ユーザPC・計20台、発表等利用貸し出しノートPC・計2台 (以上、学部生と共用)。</li> </ul>
☆ その他	

### ◎効果が上がっている事項

#### 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

☆ 小項目9.0.4	
☆ その他	



#### 【次年度に向けた方策 (1)】伸ばさせるための方策

☆ 小項目9.0.4	
☆ その他	

◎改善すべき事項

<b>【点検・評価 (2)】改善すべき事項</b>	
☆ 小項目9.0.4	
☆ その他	
↓	
<b>【次年度に向けた方策(2)】改善方策</b>	
☆ 小項目9.0.4	
☆ その他	

◎自由記述

<b>【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】</b>	
☆ その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

- 【学外委員】  
○教育研究支援体制の充実が期待されます。
- 【学内委員】  
○記述だけでは現状の環境が適切であるのかどうか、神学研究科としてどう考えているのか、よくわかりません。  
○教育研究環境の整備については順調に進展しているようですが、現状のどこが不十分なのか、さらに具体的な記述が望まれます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ 小項目9.0.4の現状説明にある「大学院共同研究室」について、院生会の要望に基づいて部屋の管理体制を見直し、利用時間を1.5時間延長している(2009年度より18時30分まで)。授業時間帯、また上述のPC等機器の充実とも相まって、研究室の利用者数および利用時間数は増加している。院生会とは他にも履修登録方法の見直しなど制度の調整も行っており、少しずつではあるが、学生の研究環境の充実につながっていると認識している。学生および研究科の両者が話し合い、ともに折り合うかたちで整備していくことで、学修・研究環境が本来どうあるべきかを考えるよい機会ともなっている。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

9.0.0.S1	個人研究費・研究旅費の額
9.0.0.S2	留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況
9.0.0.S5	科研費の申請・採択件数
9.0.0.S6	学外からの研究費の総額と一人当たりの額
9.0.0.S11	専任教員の発表論文数
9.0.0.S13	学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
9.0.0.S14	21世紀COEプログラムの採択状況
9.0.0.S15	文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況
9.0.0.S16	特定プロジェクト研究センター制度の活用状況
9.0.0.S18	校地、校舎、講義室・演習室等の面積
9.0.0.S21	教室の種別数と使用率
9.0.0.S22	PC設置台数
9.0.0.S23	研究設備(文科省補助、学院購入)の整備状況
9.0.0.S24	シャトルバスの利用状況

<個別的な指標>
